

---

# 鈍色の銃弾は誰が為に・・・

神谷 有志

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鈍色の銃弾は誰が為に・・・

### 【コード】

N6864Q

### 【作者名】

神谷 有志

### 【あらすじ】

塹壕から丘の上の敵拠点を確保するため突撃する如月章吾のお話。

どうして、なぜ、俺はここにいるのか・・・

そんなことは、過去の疑問、死線を目の前にすれば吹き飛んでしま  
う。

月明かりの中、掘ったばかりの浅い塹壕の底でふと頭の片隅によ  
ぎり笑みをこぼす如月章吾。

朝日と共にここを飛び出し、丘を必死の覚悟で駆け上り敵拠点  
を制圧する。

建前上は、敵を気合で威圧し怯ませる為に夜だと効果がない。

実際は夜だと逃走するものが続出するらしいが、なんとなく理解で  
きた。

作戦とは、呼べないな・・・胸に抱きしめた支給品のライフルに  
呟く。

隣からは小石を小刻みに合わせる音が無音に響く。

そちら側を見ると月明かりのせいかどうかは定かではないが、青  
白い顔をした奴が歯を鳴らしていた。

同じ支給品の装備を身につけ、名前もわからない引き金を引けば  
弾が出る筒を抱えている。

歳のころはわからなかった。と言うよりも知ろうとしなかった。

東の空が紅く染まるころには、小石の合唱とも言える現象が起こっていたが、自分の音だと  
気付く者は誰ひとりとしていない。

半刻前までは、機関砲に対して物量の突撃ではなく航空戦力の投入などによって  
簡単に攻略できるはずなど、色々と自分なりに作戦をめぐらせていたが、  
今では敵が何者なのか、なぜ突撃しなければならないのかさえわからなくなっていた。

澄んだ空気に、甲高い号令の笛が鳴り響く。

「相棒、いくか。」

章吾は誰よりも早く立ち上がり、塹壕を蹴りつけ、丘の上を目指し  
駆け出す。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6864q/>

---

鈍色の銃弾は誰が為に・・・

2011年10月5日11時43分発行